

長野県N I Eのさらなる充実発展を目指して



長野県N I E推進協議会会長

信州大学教育学部教授 松本浩毅

情報過多を特色とする現代社会は、我々の周辺に夥しい情報の洪水をもたらした。もはや情報収集という作業は不必要になってきたと言えるかも知れない。しかし、我々はややもすると情報の洪水をまともに受け、巨大な渦に巻き込まれて、人間が必要とする学力の重要な部分、つまり、意欲的、積極的、主体的に自らの見方や考え方を深め高めるという能力や態度、換言すれば「主体的に考える力」の育成が急速に失われていく傾向すら見える。

本当にこれでよいのか。一人ひとりが自問自答しなければならないと思うのである。最近の子どもは活字離れが進んでいるという。本を読まない子どもが増えているという。このような現状では、自分でものごとをしっかりと捉えて、自分の頭で思考したり判断したりしながら、自分なりのしっかりした考えを創り上げることは到底不可能である。

ではこのような現状をどう改善したらよいか。

そこで提案したいのが、「教育に新聞を（N I E）」の活動である。新聞は子どもにとっても大人にとっても取り付きやすい適切な媒体であるかと問われれば必ずしもそうとは言えないだろう。新聞だって読みにくいものである。取り付きにくいものである。ましては、子どもにとっては難しいものの一つである。何の配慮もなくただ適当に与えれば良いというだけでは決して有効なものにならない。教師の十分な指導と配慮があってこそ、新聞活用と言えるのである。是非この機会に各学校・教師はN I Eの趣旨を生かして努力していただきたい。教師が手間暇をかけて無理せずに長続き出来るよう頑張ることがN I E活動の趣旨を浸透することになり、ひいては学校教育に定着するのである。これからの学校教育では、幼少のときから新聞に慣れ親しむ習慣を身に付けることが大切であると考えます。新聞を正しく読み取ることは、社会の動きを適切に把握し理解していく上で重要なものである。その意味において学校教育でN I E活動の充実を図ることは重要不可欠なことであると考える。

本年度も長野県では新たな実践校が決定し、当該校の校長先生はじめ関係教諭のご努力で創意工夫された素晴らしい実践が展開されている。この活動が単に実践校だけにとどまるのではなくすべての学校に普及して行ってほしいと願うのである。各学校における先生方の取り組みとその努力が県N I E活動の充実発展に結び付くものであることは言うまでもない。今後ともN I E活動に多大のご理解とご協力をお願いするとともに、より一層のご尽力をいただきたい。

最後になりましたが、長野県教育委員会、各教育事務所、信濃教育会並びに実践校の校長先生はじめ教職員、また各新聞社など関係各位のご努力とご協力に心から感謝申し上げますとともに、長野県N I E推進協議会のさらなる充実と発展を願っております。